



「五感」

校長 三浦 伸之

梅雨。今年は入梅が遅いようです。北海道育ちの私は大学で東京に出てくるまで「梅雨」を経験したことがありませんでした。もちろん、話には聞いていて雨ばかり降るといふことや湿気が高くなって食べ物にすぐカビが生えてしまう。ということは知識として知っていましたが、これ程までジメジメするとは……。やはり知識だけで知っていることと、実際に体験することは大きく違うものですね。

梅雨はどうして起こるのでしょうか？みなさんは「梅雨」のメカニズムをご存じですか？夏が近づくと南から暖かくしめった空気を持つ太平洋高気圧が張り出してきて、北にある冷たい空気を持つオホーツク海高気圧とが、日本のあたりでぶつかります。この2つの高気圧がぶつかる場所に梅雨前線ができて、雨を降らせる。これが梅雨だそうです。この高気圧は北や南に移動するのですが、北海道付近までは移動することがあまりないので、私の故郷の北海道には梅雨がないとのこと。 (気象庁) ではなぜ「つゆ」を「梅雨」と書くのでしょうか。これには諸説あります。そもそも「梅雨」は中国から伝わってきた言葉らしく。中国でも昔は「霪(かひ)雨」と書いて「バイウ」だったのがカビに雨という響きはあまり良くないので、同じ発音で6月に収穫を迎える「梅」の字を当てようとなり「梅雨」になったとか。その読み方が日本では「つゆ」になったのは、毎日降り続く雨によって木々に露(つゆ)が降り立つように見えたから。梅が熟して地面に落下して潰れることを昔は「潰ゆ(つゆ)」と言っていたから等、こちらにも諸説あるようです。しかし、農作物にとっては大切な恵みでもありますし、インドア派の私には雨の音は、休日のとてもよいBGMです。でも、湿気だけは何とかしてほしいです。体に装着すると「ジメジメ感」がなくなる、そんな除湿剤はどこかにないのでしょうか……。

さて、8日～10日まで3年生とともに修学旅行に行っていました。天気も初日は晴れ、2日目は雨90%予報が、朝だけ降って後はせいぜいパラパラの小雨。むしろ涼しくて、熱中症を心配しなくて良い気候。そして最終日は晴れ。という感じで恵まれていました。きっと誰かの普段の行いが良かったのでしょう。そんな中、3年生はとても頑張っていました。交通公共機関で席を譲る。寝過ごしそうな歸山先生を起こしてあげる。というような心温まるエピソードや、自分たちで主体的に修学旅行を成功させようと、実行委員を中心に自分たちで決めたルールを守ろうとする行動等、いたるところで成長を感じることができました。この成長には、自分たちが住み慣れた地域や、毎日過ごしている学校ではない場所で、「見て感じる」「触って感じる」「味わって感じる」「聞いて感じる」「嗅いで感じる」という五感を活かした、机上では学ぶことができない素晴らしい「体験」があったからこそ。よく「百聞は一見にしかず」と言いますが、私の「梅雨」と同じで、やはり「体験」することこそ人間を一番成長させてくれる学びにつながる。ということを生徒の姿から改めて感じました。さあ、今度は学校総合体育大会。勝敗も大切ですが、それ以上に大切なものを是非たくさん体験してきてほしいと思います。がんばれ！！岸川中学校の生徒たち。